

中央アルプス固有の貴重な動植物群落

中央アルプス(駒ヶ岳)生物群集保護林

設定目的

当保護林は、将棋頭山から駒ヶ岳、空木岳、越百山へと連なる中央アルプスの稜線の伊那谷側に位置しています。

氷河の影響を受けた特異な地形がみられ、そこに生育する高山植物をはじめとする希少な植物群落・森林生態系の保護・管理を行っています。

地況・林況

中央アルプスは、西の木曾谷側から東の伊那谷側からも標高差が二、〇〇〇メートルを超える非常に急峻な山脈で、カール(圈谷)やモレーンなど様々な氷河地形がみられます。

亜高山帯にはシラビソ、コメツガ、トウヒ、ダケカンバ等の天然林が広がっており、稜線周辺はハイマツ帯や風衝草原がみられます。

また、中央アルプスのみに分布するコマウスユキソウ等の貴重な高山植物や、ベニヒカゲをはじめとする高山蝶など、希少な動植物の生息地となっています。

シリーズ

中部の保護林(第23回)



コマウスユキソウ

木曾殿越から空木岳への稜線

所在地

長野県 駒ヶ根市、
上伊那郡宮田村、上伊那郡飯島町



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載していません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612

ハクサンイチゲ



※詳細は、コードを読み込んでください。